



時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第 127 号

平成28年12月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／伊沢 信恭 ●発行人／石嶋 勇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

第23回

ピカピカの栃木県

平成二十八年十月十五日(土)～二十九日(土)

第二十三回「ピカピカの栃木県」が十月十五日から二十九日までの二週間にわたり、県内の幼稚園で実施されました。

これは栃木県幼稚園連合会と栃木県PTA連合会が、「家族のあり方」「環境」「公共心」について家族ぐるみで考えるための活動で、公共施設や身近な場所のゴミや空き缶拾い・草取り・落ち葉拾い等を実施しています。

私の園では、幼稚園周辺の道路そして田んぼ道のごみ拾いをしました。いつもなら子ども達がアメリカセンダングサやオオナモミで遊ぶ農道ですが、この日はゴミがあったら拾ってきれいな道にしようと子ども達も気合が

入っていました。所々に空き缶・ペットボトル・紙くずなどが落ちていて、こどもから「こんな所(草の茂みの中)にあったよ」「誰がこの空き缶捨てたのかな」「タバコ捨てたの大人じゃない?」等の言葉が出ていました。子どもは大人の背中を見て育つのですから、私達大人は環境に対する意識向上に努める必要があると感じました。

活動後はゴミがなくなってピカピカになった園周辺の道路と田んぼ道を見て、すがすがしい気持ちになりました。今回の活動が家庭で話し合うきっかけになり、毎日気持ち良い環境の中で過ごせるようになることを願います。

(総務副委員長 大久保 信男)

参加園

126園

参加人数

24,087名



(画像は小山地区 静林幼稚園)



親子でパンジーの花植えをした。手や足を土で真っ黒にしながらも大変有意義な活動であった。

期 日 十一月十二日(土)
場 所 井頭公園
参加人数 園児・教職員二百九十一名

芳賀地区 にしだ幼稚園



周辺の道路でゴミ拾いをした。子ども達は軍手を汚しながら、最後まで頑張った。

期 日 十月十八日(火)
場 所 幼稚園周辺の道路
参加人数 新国道四号線沿いの歩道
年長組(ふじ組) 園児百名
教職員六名 保護者十八名
合計百二十四名

宇都宮地区 平出幼稚園

各園の取り組み



いつも園外保育で利用している城山公園を親子みんなでピカピカにお掃除をした。

期 日 十月二十一日(金)
場 所 城山公園
参加人数 園児・保護者・教職員
百九十名

佐野地区 佐野たちばな幼稚園



八幡公園に園外保育に出掛け、園内のゴミ拾い・枯れ葉清掃を行った。

期 日 十月二十日(木)
場 所 八幡公園
参加人数 園児・保護者・教職員八十名

足利地区 認定こども園 足利しらゆり幼稚園



公園内や側道の除草及びゴミ拾いを行った。

期 日 十月十一日(火)
場 所 羽川公園
参加人数 園児七十名 保護者二十七名
職員八名 地域の方五十名
合計百十名

小山地区 羽川幼稚園



いつも園外保育で利用する公園で、ゴミ拾いを実施した。

期 日 十月十四日(金)
場 所 大平運動公園
参加人数 園児・教職員三十名

栃木地区 アルス南幼稚園



年長組と近所の祖父母の方とゴミ袋を片手にさんぽがてらにゴミ拾いをした。

期 日 十一月四日(金)
場 所 安良沢児童公園
参加人数 園児・保護者・教職員十八名

日光地区 清滝幼稚園



園外活動や日頃家族ぐるみで利用している地域の公園を感謝の気持ちをこめて清掃した。

期 日 十月十八日(火)
場 所 千手山公園 観音堂周辺
参加人数 園児・保護者・教職員
百四十五名

鹿沼地区 認定こども園 いずみ幼稚園



青空の下、道路脇などから空き缶、生活用品等を拾った。ごみの総量は約70kgだった。

期 日 十月二十二日(土)
場 所 幼稚園周辺 観光ホッポ農園
参加人数 二百五十三名

那須地区 認定こども園 黒羽幼稚園



小さなゴミも見逃さないように、頑張って拾った。

期 日 十月十五日(土)
場 所 烏山運動公園
参加人数 保護者七十二名
園児六十三名

塩谷地区 烏山聖マリア幼稚園



研修会だより

第二回 保育テクニカル講座

期日 平成二十八年九月九日

会場 コンセーレ（大ホール）

参加 百二十七名

内容 「子どもの発達を促す手あそび歌あそび」

講師 乳幼児教育研究所 所長 阿部 直美氏

今回の講座は、阿部先生の隣の方とひざや肩に触れながらの手あそびから始まり、受講者たちの緊張もすぐに解けていった。何曲もの手あそび歌遊びが、和やかなムードで進んでいく中で、「耳で聞いただけでなく、必ずリズムや音を確認するとよい」とのご指導を受けた。

中谷先生にはエプロンシアターを二作品見せていただき、演じるときのポイントやコツなどを、掴むことができた。最後に、からだ全体を使った



「ジェットコースターゲーム」「すめジャンケンレンジャー」を行い、会場の全員で楽しむことができた。早速園に持ち帰り、子どもたちと一緒に楽しめる内容が盛りだくさんだった。

設置者・園長研修会

期日 平成二十八年九月十三日（火）

会場 二荒山会館（鶴の間）

参加 百十名

内容 「全国における認定こども園の現状と課題」社会保険制度改革から見た子ども・子育て支援新制度」

講師 全日本私立幼稚園連合会認定こども園委員会

森迫建博氏

平成二十七年四月に新制度が施行されてから早一年半。栃木県内でも新制度を受け入れて認定こども園へと移行する幼稚園が実に半数を超えた。

「社会保険と税の一体改革」における、消費税の増収分のうち、〇・七兆円を財源として活用し、社会全体の費用負担により、「幼児教育、保育、地域の子育て支援の質・量両面にわたる充実」を図るというこの新制度。質の高い幼児教育と地域の実情に



じた子育て支援の充実を期待されてスタートしたものの、消費税増税の先延ばしによる財源への不安や、制度の複雑化、保護者への周知不足等、課題は山積であるのも事実である。

昭和四十八年、所謂「福祉元年」をきっかけに社会保障給付費の額は増え始め、平成二十一年の安心社会実現会議にて、社会保障、雇用、教育の連携による安心社会への道筋が示された。しかしながら、子ども・子育てに対する給付が伸びていないという現状もある。新制度は社会保障の一環であるとは言いつまでもないが、依然として少子高齢化が進む中、子育てに対する補償がどれだけ進むのかも大きな課題になるであろう。

そんな中、我々ができることは何であろうか。建学の精神、私学の独自性、幼稚園として築き上げてきたプライド……。そんな思いを抱えながら、「こどもがまんなか」ということを改めて考えていくことが大切なのではないだろうか。

講師が言うとおり、「カタチ変われど、皆幼稚園」である。

第三十二回全日本私立幼稚園連合会設置者・園長全国研修会

期日 十月十七日（月）～十八日（火）

会場 金沢市 ANAクラウンプラザ金沢

参加 約五百十名（うち栃幼連加盟園からは十八名）

メインテーマ 「明日に向けて幼児教育の振興を考へる」

記念講演

「不易流行 つなぐこと、変わる」

こと」パネラー

福島 武山氏（九谷赤絵作家）
四代 徳田八十吉氏（九谷焼作家）

行政報告

「すべての子どもに質の高い幼児教育を」

講師 文科省初等中等教育局

幼児教育課長 伊藤 学司氏

「パネルディスカッション」

パネラー 伊藤 学司氏

文科省高等教育局私学部

私学助成課長 淵上 孝氏

研究講座

（参加者が一講座選択）

・教育

「幼児教育の質の向上をめざして幼稚園・こども園の砂場から幼児の育ちを捉える」

・振興

「これからの幼児教育の振興活動を考へる」

・経営

「園運営にかかる危機管理について」

・認定こども園

「認定こども園制度の充実に向け





リーダー研修(旧教頭・主任講座)

期日 平成二十八年十月二十日(木)
会場 二荒山会館(鶴の間)
参加 八十八名

内容

新しい「幼稚園教育要領」はどのような内容になるのだろうか? 園のリーダーとして知っておかなければならないこと

講師

草加市教育委員会
子ども教育連携推進室長
嶋田弘之氏



ヒモト 平成三十一年四月施行 予定の幼稚園教育要領。「三つの資質・能力」を修了までに育てたい十の姿」「カリキュラム・マネジメントの充実」などについて園のリーダーとして知っておかなければならないことについて、教育要領改訂に実際に携わった講師の話しを聞き研鑽した。

ヒモト 学習指導要領改訂の背景、幼稚園教育要領へのアプローチ、小学校への接続部分の改訂等「生きる力」の土台づくりとしてそれぞれの目的を確認した。改訂の方向性としては、先生の力量ではなく、三つの資質・能力等の目標を基に質の向上を社会と共有し、方法を示し子どもを育てることが大切。教職員全員参加して具体的ならい内容や組織、PDC Aマネジメントの確立、人的物的資源の活用を説明された。また、主役は子どもという改訂になっていくということで、リーダーとして教育要領の基本を深めておくことの重要性を学んだ。

第二回 保育セオリー講座

期日 平成二十八年十月二十七日(木)
会場 二荒山会館(鶴の間)
参加 百三十一名

内容

保育制度と教育要領の基礎的な理解

講師

武蔵野東第一・第二幼稚園
園長 加藤篤彦氏

ヒモト

内閣府「子ども子育て会議」の委員でもある加藤篤彦氏から二十七年よりスタートした子ども子育て支援新制度について詳しく学んだ。

また、二〇〇〇年にノーベル経済学賞を受賞したシカゴ大学教授のジェームズ・ヘックマン氏が、就学前教育において認知能力を高めることも重要だが、非認知能力を高めることも重要である。特に非認知能力、つまり、やる気や根性、忍耐といった社会情動的スキルの高さが社会的成功に結びつきやすいと主張している。

そのようなことを踏まえ、日本の教育においても非認知能力を高めることが重要視されるはじめ「させる教育」から「学び志向の教育」への転換が必要であると加藤氏も指摘する。特に幼児教育においては、遊びと生活を通して働きかけることが重要だと強調する。



た日本で、これからの子ども達は、益々創造力や発想力が求められるだろう。そのような中、今回の研修は、幼児教育の転換期を考える意味で実りある研修となった。

第三回保育テクニカル研修

期日 平成二十八年十一月七日(月)
会場 コンセーレ(大ホール)
参加 百二十八名

講師

白百合女子大学人間総合学部初等教育科 講師 土橋久美子氏

「保育の中の絵本」絵本に込める願いとは

ヒモト

「子どもの頃に好きだった絵本を覚えていますか?」という問いから始まったこの講話。受講者はいくつかの絵本と共に、絵本を読んでくれた当時の担任の先生の声や、どんな気持ちでお話を聞いていたのか、各自同時に思いを馳せていた様だ。絵本の読み聞かせは脳の活性化させ、「言葉」や「想像力」、そして「想像力」を豊かにさせるなど、極めて有効であるとの事。また、大人になった今でも、好きだった絵本を思い出せるといのは、それ程までに絵本が保育に密着なものであった事に受講者は気づかされた様子であった。絵本の選び方や読み方



第三十回全日本幼稚園連合会 関東地区代表者協議会山梨大会

期日 平成二十八年十一月十日・十一日
会場 ハイランドリゾート ホテル&スパ

ヒモト

「新制度施行から一年半、今、自園の使命を考える」制度論を超えて

研修Ⅰ 「子どもの権利条約時代の保育の課題」

講師 山梨大学教授 加藤繁美氏

研修Ⅱ 「地方創生と私立幼稚園」

講師 内閣官房 まち・ひと・しごと創生部 西田紫郎氏

研修Ⅲ 「私立幼稚園の現状と課題」

担当 各県私学・保育行政担当者

研修Ⅳ 「富士山・世界文化遺産とその課題」

講師 都留文科大学 特任教授 渡辺豊博氏

ヒモト および常任理事が参加した。我が国のこ

れからの人口推計から、各県の子育て支援に関わる取り組み状況、そして、富士山の自然の素晴らしさと、その危うさを学んだ。





平成二十八年年度 関東甲信越放送・放送視聴覚教育研究栃木大会

【期日】 平成二十八年十一月十一日(金)
【会場】 真岡市民会館他
認定こども園高ノ台幼稚園
参加 二十七名(幼稚園部門)
大会主題

新しい時代を切りひらく
心豊かでたくましい子どもの育成
第四十四回栃木放送・視聴覚教育研究大会が芳賀地区を会場に行われた。校種別分科会は幼稚園の部 高ノ台幼稚園、小学校の部 真岡東小学校、中学の部 物部中学校、高校の部 真岡工業高校がそれぞれ公開保育・公開授業が行われた。

研究テーマとして、効果的なメディアの活用「子どものイメージを広げ情操を育てる」と定め、各学年の公開保育と研究発表が実施された。各学年の内容は次の通り。
〈年少〉テーマ 身近な自然とかかわって豊かな感性を育む

〈年中〉楽器を作ろう 身近な楽器に興味を持ちみんな演奏する楽しさを味わおう

〈年長〉お話の世界を楽しもう「概念の確立を高いとの関係について」

全体会は、「デジタル時代の学校教育とメディアを考える」新しい可能性を子



設置者・園長研修会

【期日】 平成二十八年十一月十六日
【会場】 二荒山会館(鶴の間)
参加 九十三名
講師 セレンディビティ株式会社

代表取締役 浅見広明氏

今回の設置者・園長研修会は、浅見広明氏をお迎えし、「リーダーが持つべき意識」の人生の師 稲盛和夫さんから教わり、私が実践していることという講演タイトルでお話をいただいた。

講師の浅見氏は、二〇〇七年に人材育成コンサルティングとして開業。「盛和塾で京セラ・JAL名誉会長稲盛和夫氏に指示し、稲盛経営哲学を学ぶ塾生の一人」として正しいこと」を判断の基軸におき、利他の心で「人が先、自分後」を日常の行動指針とする。



は幼稚園に通う長女の育児中。講演は、初めに、自身の五十歳からの子育てで子どもから教わることで、教育とともに共育の大切さ

を話した。

次に、人生の転機となった稲盛経営哲学との出会いと教えについて、「やり方」よりも「考え方」が大切であるとして次の九つのことを説明した。

- ①人生方程式
 - ②人として何が正しいかを判断基準とする。
 - ③思いを高める
 - ④利他の心で
 - ⑤誰にも負けない努力
 - ⑥パーフェクトを目指す
 - ⑦素直な心で
 - ⑧日々反省する
 - ⑨日々採算をつくる
- 最後に、経営者としての心構えとして、六つの精進ということを示してくださった。
- ①誰にも負けない努力をする。
 - ②謙虚にして驕らず。
 - ③反省のある毎日を送る。
 - ④生きていることに感謝する。
 - ⑤善行、利他行を積む。
 - ⑥感性的な悩みをしない。

〇・二歳児研修

【期日】 平成二十八年十一月十七日(木)
【参加】 百九名
【内容】 「〇・二歳の発達を促す遊びと環境」

講師

東洋大学ライフデザイン学部准教授 高山 静子氏

◎はじめに

・本日の研修の心得

◎本題として

- 一、家庭の養育の現状
- 二、乳幼児期の遊びと援助の原則
- ・乳幼児期の教育は遊びを通して

- ・乳幼児期の遊びの捉え方
- ・乳幼児期の保育の方法原理
- 三、ステージ毎の発達と保育のポイント

- ・第一ステージ(七ヶ月頃まで)
- ・第二ステージ(一歳半頃まで)
- ・第三ステージ(二歳頃まで)
- ※第三・第四ステージは幼児期

◎まとめ

生まれてすぐから七ヶ月頃までの「第一ステージ」での経験が、次のステージの基になるが、家庭の養育の現状を考えると、うまく育っていない部分も見受けられる。私たち保育者は、一人一人の成長段階を良く見極めて、その都度の環境に留意しながら対応していく必要がある。日々頑張っていきたいと思います。

今回の研修参加者は現場そのもので日々頑張っている者、上の立場でどう保育者に伝えようかと悩んでいる者など、かなり立場が違ってくる集まりだったが、講師の高山先生が発する言葉には「なるほど」と思わせる力がみなぎっていた。皆が自然に研修にのめり込んでいくようになった。「演習も」と言われて、研





平成29年度 予算要望書

団 体 名：一般社団法人栃木県幼稚園連合会
代表者名：理事長 石嶋 勇

要望事項等	継・新 の 別	要 望 事 項	
		現 行	要 望
【要望1】運営費補助金・教材等補助金の増額 運営費補助金について国に準じて増額を確保するとともに、県単補助については、群馬県(17,588円)、茨城県(15,600円)と肩を並べられるよう増額を要望します。 102条園対象の教材費等補助金について、地域の幼児教育の存続を図るために、増額を要望します。	継続	園児1人当たり 185,400円 国庫補助 23,444円 地方交付税157,100円 県単補助 4,800円	園児1人当たり 190,623円 国庫補助 23,523円 (予定額) 地方交付税157,100円 (予定額) 県単補助 10,000円
【要望2】新制度移行臨時助成費の継続 新制度に移行した幼稚園・認定こども園の教育環境の整備充実をはかるために、平成28年度に限る臨時の助成費「1号認定こども×2,400円」が創設されました。国が定める移行期間は31年度までですので、今後も引き続き、既存・新規先にかかわらず、31年度まで継続していただくことを要望します。	継続	新制度移行園1号園児 1人当たり 2,400円	同左
【要望3】子だくさん応援 多子世帯保育料免除事業費の創設 国に先んじた施策として、平成28年度に第3子保育料免除事業費が創設され、18歳未満の兄弟から数えて第3子以降の子どもの保育料の無償化が実現しました。 要望3は、この第3子保育料免除事業費を「子だくさん応援 多子世帯保育料免除事業費」に発展させるという提案です。内容は、18歳未満の子どもが3人以上いれば、就学前の施設に通う子どもが何番目の子どもであるにかかわらず、保育料を無料にするというものです。子だくさんの世帯を応援する全国的にも例を見ない事業であり、また少子化対策としても3人目を産もうという気持ちにさせる画期的な事業であります。どうか、他県に先んじた施策として発表し「子育てするなら栃木県」をアピールしていただくことを要望します。	新規 発展的 継続	第3子以降保育料免除	3人いれば保育料免除
【要望4】特別支援教育費補助金の増額 現行制度では、対象児が2人の場合は1,568,000円となりますが、1人の場合は392,000円と1/4になってしまいます。この補助額では教員を加配して対象児に必要な教育的援助を行うことは不可能です。国庫補助の対象とならない「対象児が1人の場合」「学法定立以外の園の場合」であっても、県単補助による同額の補助を要望します。 また、1号園児と同じ教育的援助を受ける2号園児に対しても、特別支援教育費補助金の対象としていただくことを要望します。	継続	・学法で2人以上在籍 1人当たり 784,000円 (国庫補助) ・それ以外 1人当たり 392,000円 (県単補助)	・学法で2人以上在籍 1人当たり 784,000円 (国庫補助) ・それ以外 1人当たり 784,000円 (県単補助)
	新規		・2号園児 392,000円 (県単補助)
【要望5】子育て支援事業等への財政的援助の充実 ①仕事と子育ての両立のために、預かり保育は大変重要です。一層の支援を要望します。 ②未就園児親子教室等の子育て支援活動を通じ、幼稚園が地域の子育ての拠点として機能を発揮できるよう、さらなる支援を要望します。 ③安心・安全な施設整備の観点から、園舎の耐震診断、耐震補強、等にかかる費用の助成を要望します。	継続	わんぱく保育推進事業	増額
	継続	子育てランド事業	増額
	継続	幼稚園耐震化事業費	増額
【要望6】栃幼連補助金と幼稚園特別研修費補助金の総額維持と一本化	継続	栃幼連補助金 3,000千円 幼稚園特別研修費補助金 3,000千円	栃幼連補助金 6,000千円

●平成29年度予算要望書について

来年度に向け、上記の要望書を、12月8日に福田知事、五月女議長(当日は早川副議長が対応)、神谷政調会長に、そして12月9日に自民党政務懇談会に提出させていただきました。

◆運営費補助金については特に県単補助部分の増額を強く求めた。

今年度限りとされている新制度移行臨時助成費については31年度までの延長を、特別支援教育費補助金については国庫補助対象外児への県における対応を、その他の子育て支援事業等への補助金については継続と増額を求める内容とした。

◆特に注目いただきたいのは要望3である。第3子だけでなく、3人以上の子を持つ世帯ではすべての子の保育料を無償化にするという内容である。「子だくさん応援する栃木県」という確かなメッセージを内外に示すことのできるこの新施策が実現されることを心から願いたい。
(振興委員長 馬場章信)





幼児教育センターだより



スキルアップセミナー

「明日の保育が変わる記録の在り方」

十月十八日に、スキルアップセミナーを開催しました。



初めに、文京区立第一幼稚園の桶田ゆかり園長から、「専門性を高めるための記録の在り方」をテーマに講話がありました。先生は、中央教育審議会の委員でもある

ことから、次期教育要領の動向について、幼児の具体的な姿から分かりやすく解説をいただきました。それを踏まえて、保育の記録を取るこの重みと楽しさを教えてくださった。明日の保育を変えてくれるのは子どもであり、子どもの気持ちを感じて気付けて変えるのは保育者です」の言葉は胸に響きました。



続いて、幼児教育センター職員より、二つの演習を行いました。研修者は、保育の映像を見て記録を書いたり、グループで話し合ったりすることを通して、記



録するポイント、記録を続けるポイントをつかんでいました。

研修者からは、『楽しんでいた』という文言は使わず、子どもの様子をもっと深く見て記述したい」「たくさんさんの素敵な記録に触れ、明日から自分もそのような記録を書いてみたい」「記録の取り方の視点やポイントが分かりやすく、園に戻り、早速他の職員に伝えたい」など、記録の重要性を改めて感じ、明日から記録を有効に活用してみようという前向きな感想が多く寄せられました。

幼児期の特別支援教育研修

「視点をチェンジする」というテーマのもと、七月十五日、十一月八日の二日間の日程で行いました。



第一日には、宇都宮大学の司城紀代美先生より、「子どもの側から見える景色とは」の講話がありました。様々なエピソード

を交えながら、子どもを主体として受け止めること、子どもの視点に気付けること等、本研修の柱となる視点について分かりやすくお話しいただきました。続いて、幼児教育センター

職員より、幼・保等における特別支援教育について講話を行いました。午後には、総合教育センター職員より「子どもの安心感を高めるかわり手の在り方」「一人で大丈夫？」支援体制について考える」の二本の講話を行いました。研修者は、これまでの講話を踏まえて、第二日までに保育実践をエピソード形式でまとめました。



第二日は、持ち寄った実践報告書をもとに、グループで報告と協議を行いました。司城先生には、各グループでの話題に耳を傾けていただきました。午後は、ワールドカフェ方式で和やかな雰囲気のもと「子どもの側に立つ」ことについて考えを深めた後で、明日からの保育についてそれぞれ誓いを立てました。最後に、司城先生から「二

日間の研修を振り返って子どもの安心感とは何か」を題にまとめの講話をいただきました。研修者の感想からは、「自分よりも現場を踏んできた先生方からの心温まるエピソードは、もっと聞いていたいほどだった」「子どもの側に立つことがどうして

難しいのかじっくりと皆で考えられて、今後の保育の方向性が見えた」など、視点をチェンジするポイントを得て、明日からの保育実践に大きな手応えを感じたようでした。

総合教育センターからのお知らせ

●平成二十八年年度

栃木県教育研究発表大会

平成二十九年一月二十八日(土)

十三時～十五時三十分

《幼小連携部会》

テーマ「カリキュラム接続の試み」とちぎりの子どもの学びをつなぐために」

発表一 認定こども園の取組

発表二 小学校の取組

発表三 市町の取組

★栃木県総合教育センターのホームページより、お申し込みください！

お詫ひ

幼児教育センター情報誌「うち」二十九号の送付が遅延し、アンケートの回収等で多大なる御迷惑をおかけしましたこと、深くお詫ひ申し上げます。

大変申し訳ありませんでした。



お知らせ

当センター副主幹 堀江賢が十一月一日付で鹿沼市立東小学校の教頭として異動いたしました。大変お世話になりました。



こども政策課だより

一月始業日現在の園児数調べの実施について

運営費補助金及び教材費等補助金の変更交付に当たり、一月初旬に、一月の始業日現在における在園児数等を御報告いただく予定です。詳細については、別途文書でお知らせします。期限内の提出をお願いいたします。

運営費補助金及び教材費等補助金に係る変更交付申請書の提出について

本年度に入園した満三歳児分等の一般補助や特別支援教育と地域子育て推進事業の特別補助に係る変更交付申請書（新制度移行園は交付申請書）については、運営費補助金、教材費等補助金ともに一月下旬に御提出いただく予定です。詳細については、別途文書でお知らせいたします。期限内の提出をお願いいたします。

子育てランド事業に係る実施記録について

子育てランド事業を実施している

園においては、各実施事業の参加人数や活動内容等の記録を実施報告書提出時に添付していただきますので、必ず記録を取っていただくようお願いいたします。

園舎の耐震化の促進について

東日本大震災以降、園舎の耐震診断の実施・耐震化がより一層求められています。

本県の私立幼稚園の耐震化率は、平成二十八年四月一日現在で八十・〇％ですが、全国平均八十五・一％と比べ、依然低い数値となっています。

県ではこれまで、**国庫補助制度や安心こども基金**による補助事業を御案内しており、多数の幼稚園に御活用いただいているところです。

平成二十九年度においても、国庫補助制度の活用による耐震化を促進したいと考えておりますので、耐震化（建替・補強等）を予定する場合は、市町の担当課も含めて早めに御相談くださいますようお願いいたします。

今後とも、園舎の耐震化に取り組んでいただき、安全・安心な教育環境の整備をお願いいたします。

平成二十九年

一月～三月までの事業予定

1月6日	※10年経験者研修
1月20日	設置者・園長研修会
2月3日	※スキルアップセミナーⅡ
2月16日	設置者・園長研修会
	※は幼児教育センター事業

平成二十九年度 主な事業計画

5月17日	栃幼連 通常総会
7月6日	栃幼PTA連 総会
7月23日	就職説明会
7月27・28日	第64回 栃木県幼稚園教育研究大会
8月8・9日	第32回 全日私幼関東地区教研大会（新潟）
10月24日	栃幼PTA連 振興の集い （那須塩原市黒磯文化会館）

慶事

- 宇都宮地区 十月二十一日
学校法人三法学園 認定こども園あつみ幼稚園 園舎落成記念式典
- 宇都宮地区 十月二十九日
学校法人今井学園 認定こども園さくらが丘 創立五十周年記念式典
- 鹿沼地区 十一月五日
学校法人仁神堂教育会
認定こども園仁神堂幼稚園
創立四十周年記念式典

訃報

- 日光市 長畑幼稚園
前園長 円山 貞枝 先生
平成二十八年十一月六日逝去
- 宇都宮市 みずほ幼稚園
園長 大出 廣志 先生
平成二十八年十一月二十二日逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

行きたくなる場所、帰りたい場所、居心地の良い場所、誰もそんな場所があるのではないかと思われる。子ども達にとって、いや一般企業の言葉を使えばステークホルダー（関わるすべての人）にとって幼稚園はそんな場所であるべきではないだろうか。そのような園の風土が子ども達にとって最も育つ良い環境であると確信している。今年も一年振り返ると、栃木県幼稚園連合会主催の研修や説明会が、数多く行われた。

社会は研究と議論、そして実践を繰り返し成長すると思われる。幼児教育も同様であると考え。研修等に参加された先生方が、幼児教育発展のため、子ども達にとって最善の環境づくりを創造して頂けたら幸いと思う。

最後に、一年間栃幼時報をご愛読いただいた皆様に感謝申し上げますとともに、来年も栃木県の子どもの安心、安全また豊かな未来を築ける様、可能な限り情報を発信、提供できればと考えております。ありがとうございます。良い年をお迎えください。

（やしお幼稚園 古本 裕二）